

ジャタニ 蛇谷 金澤のうち、吹上から岸川新道、法島等に通ずる坂路をいふ。名稱の起原は明らかでない。

ジャタニガハ 蛇谷川 石川郡妙法山の西麓溪谷から發し、右岸から瓢箪谷、左岸から親谷、また右岸から岩底谷の水を合はせ、西流して中川に注ぐ。

ジャヅカ 蛇塚 白山市、瀬登路なる馬ノタツカミと稱する峻坂の上にある堆石である。

シヤナトゴウ しやなと一號 亞米利加船で、慶應三年六月十二日七尾灣小島沖に入港した。船將ホルツブラオン、乗組二百八十名。

シヤニチ 社日 社日は春分又は秋分に最も近い戌の日である。金澤ではこの前夜から石華表を有する七社に參詣する慣習があつたが、明治中期に至つて止んだ。

ジャノクソ 蛇の尿 珠洲郡馬繰から出る。能登名跡志に、『海中より蛇の尿とて、金交りの黒き小石上る也。焼いて粉にして吞めば、糞落つる。』とある。

ジャノスシ 蛇の銚 鹿島郡松百の名産である。北國奇談巡杖記に、『松百といふ所あり。此入海五十町許に長さ四間の橋を以て渡す。此橋本にて製す。銚は伊勢鯉と稱する魚の銚の上に、海馬一つ置きてもてなす。佳物にして献上に及ぶ。味はひて美味なり。陸月半に出すとぞ。』とあるものはである。伊勢鯉とは鯉のことである。能登名跡志には、『蛇の銚とて名物あり。寄居虫といふ貝の銚なり。蛇の子とて龍に似たる長さ一寸餘の物海中に在るを、銚の上に置きて蛇の銚といふなり。』

是は海馬なり。』とするが、寄居虫は銚になるべきものでない。龍の落子を裝飾に置いた鯉の銚であらう。寶曆の調書に、蛇の銚は中昔から七尾で製し献上するが、それでも松百といふ名目にしてゐたとある。舊記に、『松百銚毎年十月中御用意申渡候へば、翌年四月中旬迄に致出来候。』と記して、これも七尾のことである。

ジャノヌマ 蛇沼 石川郡四十萬の持山にあつたが、今は埋没した。加越能舊跡緒に、『四十萬持山の内、大田池と申長さ五十間幅三十間程の池、又小田池と申十間四方計の池跡有之。此池の跡、二つ共あらはに成りて有。昔此池に蛇住由にて、人通りも成がたくに付、水を切落し、昔の池二つ共埋候所、亦此邊に蛇池と申て山の上に有之池へ、右の蛇住候故、亦其池も埋候へば、山の上に死居申候由。右蛇沼は、今程畑に成有之。』とある。

ジャバス 蛇運 ↓オニバス 鬼運。

ジャバミ 蛇喰 能登にて地江のことを古く蛇喰というた。摺華録享保十七年に、『十月十八日十九日能州羽咋郡神子原村近邊土地に割目出来、こゝかしこ高下も出来候。人馬に死傷無之、村屋も倒不申候。時として有之儀之由に而、土人は是を蛇ばみ・蛇ぐえ・蛇持・貝割など、稱候。地陷の類に而も候歟。』と見える。

ジャバミ 蛇喰 鳳至郡浦上の内の小字。シヤホウシンジュツ 寫法新術 六卷。遠藤高景の著。物體の視方、透視遠近法を説いたもので、著者は之を寫真術と名づけ、文政元年そのことに着想してから、嘉永三年に至るまで三十三年を研究に費したといふ。蓋し

加賀藩に於いて透視畫法に先鞭を着けたものである。

シヤミヤマ しやみ山 鳳至郡釜屋谷部落の西方に在る山。高さ一六七米。地質第三紀層。地圖にシナミ山とあるは誤である。

シヤリヨウ 舍涼 ↓キタムラヤシヤリヨウ 北村屋舍涼。シユウイオンコザツチヨウ 拾遺温故雜帖 ↓オンコザツチヨウ 温故雜帳。ジュウイチメンカンノンハンガ 十一面觀音版畫 白山比咩神社所藏で、『奉摺寫十一面觀自在尊三百三十三鉢三所權現□□。右志者滅罪生善心中二世悉地成就□□也。文明五年癸巳八月二十五日金剛佛子□□。』と記されるものがある。

ジュウイチヤ 十一屋 石川郡富樫庄にあつて、詳しくは泉野十一屋である。この村は金澤の郊端で、藩祖の墳墓のある野田山に通ふ道に當るから、初め泉野新村の地を相對請地として茶屋を建てたが、それが十一軒あつたのでこの名を得た。文政四年二月郡地のまま金澤町奉行の裁許に屬せしめた時、泉野村領町端十六軒の間を十一屋と唱へることを命じたが、これから十一屋町とも言はれることになつた。

ジュウイチヤノカタキウチ 十一屋の敵討 金澤に十一屋の敵討又は孝子三太の仇討と稱して、人口に膾炙する事件がある。三太は石川郡曾谷村の農であつたが、その祖父三平及び父三五兵衛は共に馬廻組の士山田權左衛門の爲に殺され、而して兄一坊・二太は復讐を試みたが返討にせられた。因つて三太は金澤に出で、今井左太夫の馬丁となり、劔を齎藤

金兵衛に學び、元和元年七月十五日權左衛門が野田山に於ける藩祖の墳墓に詣でんとした時、その途十一屋村に要して本望を遂げたといふのである。しかし、慶長十七年及び元和元年の加賀藩の侍帳を検するに山田權左衛門の名はない。今井左太夫は慶長十年の富山侍帳に載せて大小將組であるが、齋藤金兵衛は明和の頃異風組に屬する有名之劔士である。故にこの復讐談は支離滅裂で、假作に相違ないと森田平次は論じてゐる。尙權左衛門が百姓を殺した話は、寶曆五年十月十九日馬廻組岡田善左衛門が野々市で行うた事實と酷似して居るから、それから取材したものであらうと思はれる。

ジュウイチヤノタケヤブ 十一屋の竹藪 石川郡十一屋を中心として、附近部落に蓋宗竹が栽培せられて居り、單に竹材としての需要を豊かにするのみならず、その竹は頗る美味であるといはれる。三州名蹟志に、十一屋は箆敷とて小竹原であり、毎年中煤拂の時この竹を用ひるとあるのに、螢の光には、安永中十一屋村に初めて孟宗竹を植ゑ、今盛茂して金澤の店々に孟宗の符のないはないと記してゐる。↓ヲカモトウダヌウ 岡本右太夫。

ジュウイツ 十逸 ↓ナカノジュウイツ 中野十逸。

シユウエ 周惠 ↓レンカク 蓮覺。シユウエキユジゲン 周易詠兒言 五册。文政七年河合良温著。邦文を以て易經を辯解し、童蒙の初學に便じたものである。シユウエキヨクテン 周易翼傳 三册。加賀の人井上教親著。每卦變爻によつて、人事吉凶萬物の占斷を述べ、一家の占例を加へた

シユウエ 周惠 ↓レンカク 蓮覺。シユウエキユジゲン 周易詠兒言 五册。文政七年河合良温著。邦文を以て易經を辯解し、童蒙の初學に便じたものである。シユウエキヨクテン 周易翼傳 三册。加賀の人井上教親著。每卦變爻によつて、人事吉凶萬物の占斷を述べ、一家の占例を加へた